



ハケ・用水・わき水通信

NPO法人 府中かんきょう市民の会
 発行 2021年2月25日(木) No.38
 担当 葛西利武 ☎090-5564-5838
 H P <http://f-env.sakura.ne.jp>
 府中市市民活動センタープラッツ登録団体

「野鳥」生態系調査
 府中まちなかきらら etc.

西府崖線(ハケ)保全活動

〔府中市委託事業〕「野鳥」生態系調査報告

〔「府中まちなかきらら」に登録〕

日時 / 2月7日(日) 9:30~11:45
 天候 / 快晴 ☀☀☀
 参加者 / 浅田 倉町 設楽 竹内 田中 山原の会員6人
 指導員 / 田中香代子(スコープ持参)
 コース / あずまや→西府町湧水池→大山道→ハケ上→
 西府町緑地公園→エレベーター下→あずまや

地域の道路や公園にて市民が自主的に清掃活動等を行なう制度。登録すると市からゴミ袋やほうきなどが支給され、出たゴミは市が別途回収。ボランティア保険もかけてくれる。担当は府中市公園緑地課。

当会は、これまで、広く参加を呼び掛けるため「広報ふちゅう」に掲載し、春と秋(年2回)の一斉清掃活動を行なってきた。毎月初めには、日新町NEC南側にある「カップ池」前の落ち葉掃き等を行ない、近隣住民の清掃活動とともに、近年周辺の樹木の手入れもされ、成果を感じている。

☆ハケで撮った写真であるが、いずれも当日撮影したものではない
 冬鳥(渡り鳥の一種)のシロハラ オナガ(留鳥)



㊦あずまや横の「まちなかきらら」看板 ㊧看板の拡大写真

崖線の落葉樹が葉を落とし、冬鳥が餌を求めてくる1月中旬頃に毎年一般参加者を募って野鳥観察会を行なってきた。しかし、今年はコロナ禍のため、一般参加者を募らず野鳥観察会の折に行っていた生態系調査を行った。ちなみに、生態系調査はほかにも昆虫と魚類がある。

アオキヤクロガネモチの実もすっかり食べつくされ、用水路に水がなくて生き物も生息していない状況の中、シロハラ(冬鳥)以外はすべて留鳥(年間を通して同じ地域に生息し、長距離の季節移動しない鳥)を観察。以下は確認された野鳥11種。※ハシブトガラスとハシボソガラスの違いを2面に特集
 キジバト、コゲラ、オナガ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シジュウガラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、スズメ

あずまやの「タバコのポイ捨て禁止」看板が貼られたベンチでは、ゴミは見かけなくなったものの、2月の「カップ池」前の清掃時には一段高い植え込み内に沢山の吸い殻が捨てられていました。ポイ捨ては止め、是非、自前の「携帯灰皿」の利用をお願いします。

西府崖線生態系(野鳥)調査結果

野鳥の名前	令和03年 2月07日(日)			令和02年 1月19日(日)		
	直視認	鳴き声	計	直視認	鳴き声	計
① キジバト	1	0	1	1	0	1
② キアサギ	0	0	0	0	0	0
③ オナガ	1	0	1	1	0	1
④ ハシブトガラス	1	0	1	1	0	1
⑤ ハシボソガラス	1	0	1	1	0	1
⑥ シジュウガラ	1	0	1	1	0	1
⑦ ヒヨドリ	1	0	1	1	0	1
⑧ ウグイス	1	0	1	1	0	1
⑨ メジロ	1	0	1	1	0	1
⑩ スズメ	1	0	1	1	0	1
⑪ シロハラ	0	1	1	0	1	1
⑫ オナガ	0	0	0	0	0	0
⑬ ハシブトガラス	0	0	0	0	0	0
⑭ ハシボソガラス	0	0	0	0	0	0
⑮ シジュウガラ	0	0	0	0	0	0
⑯ ヒヨドリ	0	0	0	0	0	0
⑰ ウグイス	0	0	0	0	0	0
⑱ メジロ	0	0	0	0	0	0
⑲ シロハラ	0	0	0	0	0	0
⑳ オナガ	0	0	0	0	0	0
㉑ ハシブトガラス	0	0	0	0	0	0
㉒ ハシボソガラス	0	0	0	0	0	0
計 種類	10種類	1種類	11	16種類	0	16



㊦2019年5月 ハケの清掃活動
 ㊧2021年1月 カップ池前の清掃活動
 通路がピッカピカ 🌟🌟

一般財団法人
**セブン-イレブン
 記念財団**

この活動は一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受けています。

ハシブトガラスとハシボソガラスの違い

☆左の写真2枚と下記2図はネットから拝借



都会派のハシブトガラス



田舎派のハシボソガラス

日本に広く分布するカラスです、ハシボソガラスとハシブトガラスは、ともにカラス科カラス属に属する鳥です。ハシブトガラスの名前の由来は、「ハシブト=くちばしが太い」こと。ハシボソガラスは「ハシボソ=くちばしが細い」ことからきています。ハシブトガラスは太いくちばしを持つ都会派のカラスといわれ、ハシボソガラスはひらけた場所を好む田舎派のカラスとも言われます。そのほかのおもな違いは、以下です。

比較項目	ハシブトガラス	ハシボソガラス
体の長さ(平均値)	56cm	50cm
嘴(クチバシ)(平均値)	大きくて太い(長さ6.8cm、幅2.7cm)	小さくて細い(長さ5.3cm、幅1.9cm)
頭部	段になっていておでこがでている様に見える	段差がなく、なめらかに見える
鳴声	澄んだ声(カーカー)	濁った声(ガーガー)
住まい	街の中、公園の森、海岸	郊外(田園地帯、農耕地、河川等開けた場所)
営巣の場所	クスなどのより高い常緑広葉樹の茂み	落葉広葉樹やマツなど明るい樹枝上
食生活	肉食傾向が強い	やや植物食傾向が強い
歩き方	スズメのようにピョンピョン跳ねることが多い	人間のように足を交互に動かして歩く

ハシブトガラスとハシボソガラスのお話し

★街を歩いていて一番身近な鳥はカラスかも。外見は大きくて真っ黒な鳥だが、よく見るとどこか違って見える。額が盛り上がったハシブトガラス、全長(くちばしの先からしっぽの先まで)56cm、上くちばしは太くアーチ状で、頭を前に突き出し「カーカー」「アーアー」と澄んだ声で鳴く。

飛んでいる時は軽くあさく羽ばたき、地上に降りた時はピョン、ピョン飛び跳ねるか「よいしょ、よいしょ」と大儀そうに歩く。全国に分布し、街中から奥山までいろいろな場所で生息し、小さな木の実から、大きなアオダイショウまでいろいろなものを食べ、夏季には羽化するために地上に出てきたセミの幼虫も捕食。夕方になると群れで地上に降りて待ち構えていることもある。

★額のなだらかなハシボソガラス、全長50cm、くちばしはストレート、頭を大きく上下させながら「ガーガー」とにごった声で鳴き、飛んでいる時の羽ばたきは振り幅が大きくて頑張ってる感じ、降りた時は脚を伸ばしてスタスタと歩く。

農耕地や河川敷(多摩川)に多く生息し大都市や高山帯では少ない。クルミや貝類など、硬い殻のある食物を空から道路に落として割り、中身を食うことがあるが、一度落として割れないと再びくわえなおして飛び上がり、同じ行動を繰り返す。車に轆かせて割ることもある。

★しばらく見ていれば、好きにならないまでも、少し興味をそそられる鳥では・・

(田中香代子)

カラスの棲みかは？…みんなで考えよう



ハシブトガラス



ハシボソガラス

カラスはとても「賢い動物」です。ハシボソガラスがクルミを車に踏ませて食うことはよく知られています。人間の道具(車)をクルミを割るための道具にしています。カラスの脳は発達して、ほかの鳥より大きいのです。

カラスは元々森などに棲んでいましたが、ハシブトガラスは1980年代頃に都会にも棲むようになりました。その理由は人間の捨てるゴミの中に魅力的な食べ物が沢山あったからです。それまでは森で昆虫、種子、果実、ヒナ、残飯、鳥の卵などを食べていましたが、すっかり都会の味をしてグルメになったハシブトガラスはもう森には戻れません。

一方、ハシボソガラスも食べ物の争奪戦に加わりました。しかし、ハシボソガラスはハシブトガラスより体が小さいためハシブトガラスにはかないません。それによって、ハシブトガラスが街中の制空権を手に入れたのです。

カラスは疎まれることが多いですが、彼ら呼び寄せたのは人間自身なのです。人々が食べ物を粗末にした結果、カラスは街中に定着したのですから、我々が食べ物を粗末にしなければ、カラスはまた森へ帰るかもしれませんね。

(葛西利武)